

うみ・そらだより

5月の下旬、蚕の卵がやってきました。虫メガネで見ないと見つけられないほど小さな黒い粒が卵だと知って、驚いていた子どもたち。しばらくすると孵化し、糸のように細く黒い、虫が動き出しました。早速、桑の葉を細く小さく切って与えると、むしゃむしゃ食べては眠り、食べては眠りを繰り返す蚕。1令から5令までの間に脱皮と眠りを繰り返すのですがその間の食欲はすごいもの、毎日大量の桑を与えなければなりません。当然食べれば糞も出るので毎日の掃除が日課となりました。はじめは保育者の仕事でしたが世話をしていくうちに手伝ってくれる子どもが増え、世話の仕方や餌の選び方など教えあう様子が見られました。朝昼夕、一日3回の餌やりを一生懸命取り組んでくれました。



乾燥して黒くなった桑の葉と糞を丁寧に選別しています。



お世話をする子が毎日のように増えていきました。始めは「うんち、やだー」なんて言っていた子も「蚕のうんちはきれいなんだよ!」「葉っぱのにおいがするんだよ」と教えあうようになりました。



繭になるのを楽しみに、毎日、せっせと世話をしては「大きくなったね」「うごかなくなったけどねてるのかな」「白い糸が出てきたよ?」と新たな発見をする子どもたちでした。